カギの色

志咲 あさみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カギの色

【Ｎコード】

Ｎ３０８２Ｚ

【作者名】

志咲　あさみ

【あらすじ】

「宙のカギ」に続く、もう一つの本編。４話に登場する少年が主人公のお話です。

少年、ノエルが遺産に挑みます。

1―1（前書き）

こちらだけでも楽しめるよう努力しますが、「宙のカギ」を先に読むと少し世界観が分かりやすいかも知れません。おすすめします。

1―1

僕は己をを見失っているのかもしれない。

けれどこの気持ちだけは、いつまでも、生まれたときのままを抱き続けていたいんだ。

どうか。

だから。

その時には僕を正してくれ。

＊＊＊

宇宙広しといえど、ウォーレン家ほど悪名高い家もないだろう。相当な資産を有し、宇宙規模で遺産争奪戦を引き起こしている魔眼の一族。

接頭詞は種々あるが、ウォーレン家を最も有名にしているのはやはり何と言っても魔眼だろう。

かつてはその力で覇を唱えていたという。

先行する現当主、バルレル・ウォーレンの背中をノエルは探るように見つめた。

初老を過ぎて尚すらりと伸びた背筋にこれが当主というものなの

だろうかと密かに唸る。じき十六になろうというノエルにはまだまだたどり着けない領域だ。
顔は知っていたがこうして間近で接するのは初めてだった。
どうしても本家で調べたいことがあり連絡をしたなら当主自らに出迎えられ、こうして案内まで買ってでられては、恐縮を通り越して困惑する。
（出迎えなんて予想外だ……）
気が向かなければ家人に言って門前払いさせるような、そんな想像をしていたから正直面食らっている。
「不思議かね」
「え？」
それまで特に会話もなかったから、ノエルの緊張は一瞬で高まった。見ずともそんなことは手に取るように分かるのか、バルレルが笑った。
「わたしもおまえさんでなければわざわざ出迎えはしなかったさ。あれの子がうちへ来るなんて初めてだからな。――あれはどうしている、元気にしているか」
あれ、が指すものをノエルは一つしか知らない。
ノエルの父でありバルレルの息子、ビル・ウォーレンだ。
何と答えたものか迷って、
「……と思います」
曖昧な返答に、バルレルが呆れたように笑う。
「おまえさんも会ってないのか。ま、便りがないのは元気の証ともいうしな。……まめに便りが届いてもそれはそれでぞっとするが」
ノエルは無言で首肯する。
あの父がまめに近況を連ねる姿などちっとも想像できない。そうなれば青天の霹靂で、天変地異の前触れかと勘ぐるだろう。
「ここだよ」
一階を道なりに進み、廊下の途中でバルレルが足を止める。そこは他と違い、観音開き両になっていた。左右合わせて一つの絵にな

るよう、扉全面に手の込んだ精緻な彫刻が施されている。ノエルは思わず息を飲んでそれに見入った。制作過程を想像するだけで、掛かっただろう時間に気が遠くなりそうだ。
「そうだ、一つ言っていないことがある」
「？」
首を傾げるノエルに、「なに、大したことじゃない」とバルレルが笑う。
「実はな、先客がいるんだ」
「先客、ですか」
「心配には及ばんよ。この中で諍いは起こりようがないからね」
さらりと笑顔で告げられるも、首筋に刃物を当てられたような怖気をノエルは覚えた。額面通りならば「室内で喧嘩はするな」ととれるが、どうもそう軽んじるのはよくない結果をもたらす予感がする。
バルレルは含みを持たせるだけで詳しくは語らなかった。
「君にとって有意義な時間であるように」
視線に促されノエルは扉を開いた。

1―1（後書き）

初回、短いですよね……。次、間を開けないよう頑張ります！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3082z/

カギの色

2011年12月10日21時56分発行